

●頑張ったねパーティー●

(日時) 2017年 12月 26日 (火)
 (場所) コミュニティールーム武庫
 (参加者) コミュニティールーム武庫と
 尼崎市立すこやかプラザに通う中学生(7名)
 (学生スタッフ) 6名

私たちは子ども福祉をテーマに一年間活動を行いました。はじめは、親子のサポートや子ども食堂、昨年度の先輩方が活動していたすこやかプラザとの継続的な交流に学習支援など、たくさんの方に興味をもっていました。そこでイベントを企画していくにあたり、私達はまず尼崎市役所や学習支援団体の方にお話を伺いました。そこでは、尼崎に住む貧困層の子ども達の現状を知りました。

私達には何ができるのか。班のメンバーで話し合うだけでは答えが見つからないので、実際に行動してみようと、昨年先輩方が活動の拠点としていた尼崎市立すこやかプラザの子ども達に会いに行きました。小中学生の子ども達と関わっていくうちに分かってきたことは、「自分なんか・・・」と思ってしまう自己肯定感の低さと、それに伴って将来に対して希望をもてない学習意欲の低さを感じました。

そこで私達は子ども達の視野を広げて自立につなげることを目標に、第一弾のイベントとして、「頑張ったねパーティー」を企画しました。対象の子どもは、将来について現実的に考え出しているすこやかプラザの中学生と、コミュニティールーム武庫に通う中学生です。自己肯定感の向上のためにはどうすればいいか調べていくと、過程を経た上での達成感により、やりきった、頑張ったと思えたら、自己肯定感を高められるということが分かり、プレ・イベントとして、イベントに使う装飾を子ども達と一緒に作りました。

そしてイベント当日、朝から子ども達と一緒に会場



の飾りつけをし、イベント開始です！まずは1人ずつ自己紹介をしてから、私達と子ども達との距離を縮め、みんなの

緊張をほぐすために、2チーム対抗のアイスブレイクを行いました。会話禁止(!)の並び替えゲーム、出題者が決めた答えを回答者が質問しながら当てていくYes/Noゲーム、ジェスチャーでいくつお題を伝えられるかを競うジェスチャーゲームの計3種類を行いました。どれも、お互いの目や表情、動作を良く見てコミュニケーションをとるものだったので、はじめに距離のあった中学生同士も、自然と打ち解けていきました。

次は、みんなでお昼ご飯を作りました。自分で考え選択することが肯定感につながるといことで、事前に子ども達にメニューを決めてもらったり、当日は野菜の切り方や煮込む時間、盛り付け方などを、子ども達と相談しながら、進んで調理してもらいました。中には普段から料理をしている子どももいて、それまでは控えめだった様子が、料理では自信を持って率先して行動している姿が印象的でした。そして最後には、自分たちが工夫した点を発表してもらいました。子ども達にとってみんなで食卓を囲う時間は、特別なものになったのではないのでしょうか。



料理の後は、勉強の時間です！私たちの班は英文・総文・心理・環境バイオと学科が異なるメンバーが集まっているので、それぞれの専門分野を生かしたコーナーを、と思い、今回は心理の時間を取り入れました。子ども達も普段から触れることのあるTwitterを例に、メディアディテラシーについてのクイズを3つ行いました。ここでは、子ども達のなじみあるTwitterを用いることで勉強という垣根を低くし、物事を一つの方向から見るのではなく、様々な角度から客観的に見ることの大切さを伝えました。



最後には、頑張っているところを周りの人たちは見ていることを伝えるため、



そして自分自身の頑張っていたことを振り返るきっかけを作るために、この日みんなが頑張ったことをまとめた色紙を作成し、一年間の頑張りを称える表彰状と料理に用いたレシピなどを子ども達にプレゼントしました。

心理学に興味をもってくれたり、料理を工夫していた子ども達の様子をみれ、そしてこの日一日を楽しんでくれたことが、とても嬉しかったです。今日が自己肯定感を高め、視野を広げる第一歩になったら嬉しいなと思います。



●Welcome to KC●

(日時) 2018年2月24日 (土)
(場所) 神戸女学院大学
(参加者) コミュニティールーム武庫と
尼崎市立すこやかプラザに通う中学生(6名)
(学生スタッフ) 5名

前回のイベント中、子ども達の口から大学の学費がいくらなのか、将来どんな仕事につきたいかという話しが少し出てきました。いじめで学校や人と関わることが嫌になり進学を諦めて学習意欲が薄くなっている子から、そういう前向きな発言がでてきていました。おそらく身近になった大学生の姿をみて、自分の将来について具体的に考えられるようになったのではないかと思います、1回目のイベントでは自己肯定感の向上による視野の拡大を目指しましたが、私たちはさらに子ども達に視野を広げ、将来についても希望をもってもらうため、2回目のイベントを企画しました。それが「Welcome to KC」です！実際に大学生活を垣間見ること、進学を見据えた将来について考えやすくなるを考えました。今回は子ども達を女学院に招待し、女学院生1日体験を実施しました。前回のイベントでは心理学科のメンバーが活躍したので、今回は英語と環境バイオの専門を活かした模擬授業と、学内ツアーで構成しました。

イベント当日はとても天気がよく、子ども達も元氣よく女学院の坂を登ってきてくれました。まずは入学



式と称し、みんなに名刺形式の名札を配りました。全員が受け取ったあとは、1限 Communication in English の始まりです。みんなの前で自分の意見を言うことに慣れることを目的に、英語のディスカッションを行いました。テーマは中学生が好きなアニメにし、より意見を出しやすいよう工夫をしました。ディベートで使える簡単なフレーズをあらかじめ子ども達に教え、それを元にみんな自分が伝えたい内容を一生懸命考え、電子辞書を使いながらみんなで文章を考えていました。発表では、みんなが意見を出し合い、とても充実した時間でした。ただ中にはアルファベットを書くことができない子がいましたが、周りがサポートしてこなしていました。

式と称し、みんなに名刺形式の名札を配りました。全員が受け取ったあとは、1限 Communication in English の始まりです。みんなの前で自分の意見を言うことに慣れることを目的に、英語のディスカッションを行いました。テーマは中学生が好きなアニメにし、より意見を出しやすいよう工夫をしました。ディベートで使える簡単なフレーズをあらかじめ子ども達に教え、それを元にみんな自分が伝えたい内容を一生懸命考え、電子辞書を使いながらみんなで文章を考えていました。発表では、みんなが意見を出し合い、とても充実した時間でした。ただ中にはアルファベットを書くことができない子がいましたが、周りがサポートしてこなしていました。



2限は環境バイオ学科のメンバーを中心に、ミジンコの生態学実験を行いました。事前に人数分の顕微鏡やピペットなどの機材、白衣などを用意し、子ども達を実験室に案内しました。初めて白衣を着た子ども達はテンションがあがっていました！最初にミジンコについて説明していたのですが、中学生にも分かりやすく説明するために表現するのにとっても苦労しましたが、みんな真剣に聞いてくれました。顕微鏡の使い方も説明し終わると、いざミジンコの観察！ピントを合わせて拡大されたミジンコをみて、純粋にすごいと喜んでいる子、戸惑っている子と多種多様でしたが、「可愛い可愛い〜」と言ってずっと眺めている子もいました。

お昼までしっかり授業をしたあとは、全員でお昼ご飯を食べ、女学院生の一員のように一息つきました。午後からは3限のキャンパスツアーです！班のメンバーと子ども達とまざり、2チームにわかれ、写真で用意したスポットを探しながら学内を探検しました。これまでどこか冷めた雰囲気がある子どもたちが、見たことのない校舎に目をきらきらさせて走り回る姿に、驚きと同時に嬉しさを感じました。



お昼までしっかり授業をしたあとは、全員でお昼ご飯を食べ、女学院生の一員のように一息つきました。

午後からは3限のキャンパスツアーです！班のメンバーと子ども達とまざり、2チームにわかれ、写真で

用意したスポットを探しながら学内を探検しました。これまでどこか冷めた雰囲気がある子どもたちが、見たことのない校舎に目をきらきらさせて走り回る姿に、驚きと同時に嬉しさを感じました。



一緒にイベントに来てくださった施設の職員さんも、「子どもたちのこんな姿をみたことがない」と喜んでいらっしゃいました。

あっという間にキャンパスツアーの時間が終わり、最後は卒業式です。今日経験したことをいつでも思い出せるよう、授業のまとめのしおり、クリアファイル、そしてみんなで撮った写真をアルバムにまとめ、子ども達にプレゼントしました。実は、一回目のイベント時、朝起きられず遅れてきた子がいたためイベントの開始時刻が遅くなりました。しかしその一回目のイベントがとても思い出深かったようで、この日は全員が心待ちにして早く集合してくれました！「今日はほんとうにありがとう」と言ってくれて、期待通りのイベントになって良かったです。そして大学に対して「とても楽しい印象になった」、「大学の勉強を体験してすごく興味をもった」という感想からは、すでに将来に対して前向きに考えてくれていることが分かりました。イベント中「もっと学校に行っておけばよかった」という声も聞こえ、心に刺さりましたが、その気持ちを原動力として、将来について考えてほしいと思いました。



最初は手探りではじめた活動でしたが、少しずつ目標が定まり、ようやく自分たちのしてきたことが実を結んだように感じます。そしてなにより、初めて会った頃より子ども達の表情が明るくなり、積極的に行動している姿にとっても感動しました。これから大人に近づくにつれて悩むことも増えるかもしれませんが、自分に自信をもって、前に進んでいってほしいです。私達と仲良くなってくれた子ども達、お世話になった関係団体の皆様、ほんとうにありがとうございました。